



茨木市では、2050年ゼロカーボンシティの実現に向け、市民・事業者等の各主体による脱炭素の取組を後押しすることを目的として、令和7年度以降に「脱炭素プラットフォーム」の構築を予定しています。脱炭素化の取組は、地球環境を守るだけでなく、私たちの暮らしの質を向上させることにもつながります。ともに持続可能な社会の実現をめざしましょう！

## 第2回脱炭素プラットフォーム構築に向けたワークショップを開催しました

プラットフォームの構築に向けて、2025年2月27日に第2回のワークショップおよび意見交換会を開催しました。本会では、前半に近畿経済産業局から民間事業者向けの支援策等の紹介や、参加事業者から脱炭素に寄与する取組の紹介を行いました。後半は、事業者同士のマッチング案を考えて、脱炭素化を進めながら新たな事業化を図るために必要なことを共有しました。

参加事業者・団体：13事業者 13名

イオンモール株式会社、茨木市商工会議所、浦川トランス工業株式会社、株式会社大口油脂、大阪ガス株式会社、カリエール茨木、関西電力株式会社、ゴウダ株式会社、株式会社ゾーンデザイン、ダイキンHVACソリューション近畿株式会社、日東電工株式会社、NPO法人nature works、株式会社フォーシカンパニー（50音順）

### マッチングと事業創出疑似体験

ワークショップでは、異業種の事業者がマッチングして脱炭素に貢献する新たな取組を考えました。各班が個性的な取組を考えていました。



#### 取組案の一例

- 未回収分の家庭の廃食油を回収しリサイクル
- 市内業者を活用し輸送のCO2削減
- 運動をエネルギーに変える など80案程度

#### 意見交換

「事業者同士がマッチングして事業創出を進めていくにあたって必要なこと」をテーマに意見交換を行いました。

#### 挙げた意見の一例

- 参加者や連携する関係者が「共通のビジョン」を持つことが重要
- お互いの強みと弱みを補い合うことが必要であり、そのためにはまずお互いを知ることが大切
- 事業者にとって利益を確保することが重要な課題、利益を生み出す仕組みをフレームワーク化し、それに基づいて進めることが必要 など

#### 感想

- 実現可能な糸口さえみつかれば現実的な話になるのではとわくわくしました。
- 「上下や縦割りがなく、各自の強みを活かし、弱み（凹み）を他者が埋めることができれば、強固なプラットホームができる」と同じ思いに達したことが印象的です。
- 共創についてのアイデアはいくらでもあることを改めて実感しました。 など

実施後のアンケートでは、第2回ワークショップの満足度は100%でした（満足した、やや満足したの回答率）。また、令和7年度も脱炭素プラットフォーム構築に向けたセミナー等を予定しています。

